

埼玉アーツシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



SAITAMA ARTS
FOUNDATION
(財)埼玉県芸術文化振興財団

7

2007.1-2



【蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA 千の目】

女優 白石加代子 × 蜷川幸雄

(財)埼玉県芸術文化振興財団

芸術監督・演出家



CONTENTS

02 NINAGAWA 千の目
白石加代子×蜷川幸雄

06 PICK UP 彩の国シェイクスピア・シリーズ第16弾
「コリオレイナス」

08 PICK UP 彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾
「恋の骨折り損」

10 PICK UP ヤン・ファーブル
『わたしは血 JE SUIS SANG』

12 PICK UP ヤン・ロワース&ニードカンバニー
『イザベラの部屋』

14 PICK UP ピアニスト100

15 PICK UP 仲道郁代 ピアノ・リサイタル

16 PICK UP ピアノ・エトワール・シリーズ

17 PICK UP ウィーン少年合唱団

18 EVENT INFORMATION

20 さいたまゴールド・シアター

22 EVENT CALENDAR

○公開対談シリーズ第6回○

NINAGAWA 千の目

まもなく彩の国さいたま芸術劇場で上演される、蜷川幸雄演出による『コリオレイナス』で、主人公の運命を左右する強い母親役を演じる予定の女優、白石加代子さん。これまでにも数々の蜷川作品に出演して来た白石さんは、蜷川にとって、最も信頼が置ける役者であると同時に、演劇が最も熱かった時代を生きて来た同志でもある。二人が繰り広げる話には、演劇の深さや面白さがたっぷり。味わい深い対談となった。

『コリオレイナス』の地に立ち、古代ローマに思いを馳せる

蜷川(以降N) 『NINAGAWA 千の目』シリーズ、第6回のゲストは白石加代子さんです。白石さんは1960年代の後半に衝撃的な演劇をひっさげ、演技で世界中を魅了し、ヨーロッパでも名がとどろく優れた女優さんです。現在では『百物語』や朗読劇としての『源氏物語』などを一人でされています。その白石さんからたくさんのお話を聞かせて頂きたいと思っています。白石さんどうぞ。(拍手)

白石さんは今度やる『コリオレイナス』のためだけではないと思いますが、イタリアにいらっしゃったんですね。演じるために役に立ちましたか。

白石(以降S) スケールの大きさ、そして掘ればどこでも遺跡が出来るような雰囲気で、その遺跡の下にはもっとその前の遺跡があるのだという話をうかがうと、とてもない国だし、『コリオレイナス』は古代ローマのお話でしょう。だから雰囲気はちょっと分かりました。

N フォロロマーノに行ったわけだ。

S 行きました。その気になっています。

N 主人公になった気分で歩いたわけだ。

S もちろんです。睥睨してきましたから。(笑)

N ところが『コリオレイナス』はただ古代ローマのセット、衣装でやるわけではなくて、少し日本風にするので京都の石段の方がよかったかもしれないですね。(笑)

手の内を明かすと、古代ローマの芝居は、この間の『タイタス・アンドロニカス』で似たようなことをやってしまったので、いろいろな彫刻などを使いたくないのです。どうしようかと思って、少し変えようかと七転八倒していく、どういう所でイタリア的なものを表せるのかと思った時に、「石の階段だ」と思いました。石段がずっとあるとローマの感じが出ると思ったのです。それを日本のものの中に入れようかなというのが今度の演出プランなのです。



(財)埼玉県芸術文化振興財团芸術監督・演出家 蜷川幸雄

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も「近代能楽集」(ニューヨーク公演、歌舞伎「NINAGAWA 十二夜」、「メティア」、「天保十二年のシェイクスピア」など多数の演出を手がける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。(財)埼玉県芸術文化振興財团芸術監督

子供の頃から 劇団に入るものと決めていた

N 白石さんは俳優になろうと思ったのはどういう事がきっかけですか。

S 蜷川さんの前でこんなことを話すのははずかしいけど、これはずっと後になって導き出した答えですけど、生まれつき血が騒ぐような子で、今でもテレビにつられて踊り出す子供がいるでしょ。ああいう資質ではないかと思います。その当時は車もあり走っていなかったので、道路で踊っちゃうのです。そうすると母が心配して、あまり落ち着きがないから日本舞踊を習わせたりしたのです。しかし貧乏でしたので短期間習っただけです。その時のが身体にびたっと張り付いているみたい。それと自己顕示欲が強くて、父親が生きていた時にちやはやされていて、急にいなくなつて、どん底になつたら誰も自分に注目しないという時代が来た時に、そこから何かはね除けて、何とか自分に目を向けて欲しいという意識があったような感じがします。そういうことが前提にあって、小学校の講堂で、巡回劇団の芝居を観て虜になり、小さな我が家に近所の子を集めてお芝居ごっこをしたのが最初だと思います。だから芝居は身体を動かして何か楽しいことをするのだと考え、いつか劇団に入るのだとずつと思っていた。でも私の家は母子家庭だったので、弟が高校を卒業した時に、「これで私は自由かな」と思って始めたのが早稲田小劇場です。

N 早稲田小劇場という劇場があって、60年代の終わりの方では衝撃的な演劇を立て続けにやっていました。早稲田の小さな喫茶店の二階ですよね。あの小屋ではお客様は多くいらっしゃいますか。

S 無理に詰めても120人くらいですね。私が演じているとここにお客さんの顔があるという詰め方です。

N いま演じてと言ひながら、体や手をねじっていましたよね。すくと立たないよね。

S 最初は、ご存知の通り「狂気の女優」とか「情念の女優」とか言われていて、わりあい日本の物をやっていました。台本はきちっとあるのですが、狂気の女がこの台本を演じるという二重構造になつていて、すごくすてきな鏡花のセリフを言うのですが、身体は狂っているので変なことをするですから、ついねじってしまいました。

それはどういうことかというと、狂気の女が座敷牢につながれていて、自分の幻想の中に時々入っていってしまうという設定です。幻想の中に入った時は泉鏡花の女系図のセリフなどを言うのです。一番覚えている所は、畠半畠の上に鎖につながれている。そうすると子どもが私に食べ物を運んでくるシーンがあるので、突然、私がおもらしをして下の世話をさせると、はいつくばって着物の裾をびやっとめくってね。ふと見ると20cm位先のところにお客さんの顔があるんですよ。そういう身体をしながら、「わたし、山百合を買ってきて早く咲くようにぼみに水を吹いて膨らませておいたのですよ」というセリフを言うのです。だから身体は一番はずかしい格好をしながら、美しいセリフを澄んだ声でうたい上げますから、身体と意識が引き裂かれた感じです。

N こういうのは実演ですよね。演劇の魅力の基本的なことです



次にやる時には、
新しい白石さん、新しい蜷川幸雄像で行こう

ね。これは映像で観てもちっとも面白くないと思いますが、この空気を共有するとすごく人間に対する信頼関係というか、直接性がいいなど、僕などは思って演劇から逃れられないのですが、芝居ってそういう所がありますよね。

S そうですね。

N 白石さんとはお友達で、デビューが同時代にそれぞれの劇団で出てきたんですね。だからある種同窓生のような気分の所があるので。それが僕らはある所では親密にしたり、自由にさせてもらえるのです。だから白石さん今みたいな役ばかりではなくて、「いい女をやろう。いい女をやろう」といつも言ってるよね。

S ウソばっかり。汚い役ばかりやらせて。(笑い) 最初に蜷川さんに他の自分がやりたい作品を持ってお尋ねしたら、目の前で断つたじゃないですか。「俺、イヤだよ」と、すごいですよね。そういう方にお会いしたのは初めてでした。でも、少しだったら、その気持をケアしてくれるようにお説かりがありました。その時の最初にきたお話は、シェイクスピアの『夏の夜の夢』というお芝居でした。当時の私はストイックな女優でしたから、ああいう祝祭劇は私には合わないとと思っていたので、お断りしようと思っていたのですが、今度の翻訳家の松岡(和子)さんという人が電話で怒鳴り込んできました。「蜷川さんとの大切なこういう機会をもし逃がすとしたら、本当にあなたは愚かだ」と言うのですよ。「どうかな」と思って怖々出させて頂きました。

N 一番最初に頂いたお話の役が、どうもそれまでの白石さんを打ち壊すような力があるように思えないと思ったので、それだった無理と思ったのです。

でも『夏の夜の夢』はとても面白かったね。お金がないからカツラ

を作れなかったのです。それで金網でカツラのベースを作り、黒いゴミ袋を買って、はさみで切ってわかれみたいに結わえていました。その上に造花を付けていました。その造花も有名なアートフラワー作家の飯田深雪さんのお宅にいて、「いらなくなったり造花を下さい」と言って自分たちで頭に付けて作りました。

S 私は妖精の女王だったので、私の花冠は蜷川さんが作ってくれました。それはもう、すばらしく美しかったですよ。

N 白石さんの演技が驚くべき柔軟さで、まず軟体動物みたいに、身体がグニャグニヤになっていき、声も何通りの声が出て、地をはうような、低い声から、ヨーロッパ的な朗誦も白石さんはできるから、地べたから天空までがあるので。「いい女優さんだなあ。ここを鈴木(忠志。注:当時、白石さんが所属していた劇団SCOTの主宰者)に独占させておくのはおしいなあ。取っちゃえ」という感じでした。あれは楽しかったですね。ロンドンも行ったのですが、ロンドンでも受けたよね。

S ロンドンでは『夏の夜の夢』は学芸会で誰もが一度はやるみたいで。だからお客様全員がセリフを知っているのです。日本語でやっているのにすごい受け方で、日本語が分かるのではないかというぐらいでした。

お母さんと妖怪。

両方ができる女優は稀有

N 白石さんと一緒にやった『身毒丸』のシーンをお観せしましょう。(ビデオ放映)

これは、お母さんが死んでしまったから新しい母を買いに来よう。



自堕落な身体で綺麗な声を出すような、
分離したようなことが好き



女性像は破綻しますよね。やはり私、どちらかというと、リアリズムは不得手ですね。例えば先ほどみたいにとても自堕落な身体をしながら綺麗な声を出していくような、分離したようなことはとても好きで、だから自分の中にも少しでも鬼になりたいような気分があると、そこから広げて鬼になります。だからある時期から破綻を来す役とかはとても魅力を感じるが、一般的なその辺の奥様とかを魅力的にやるのはちょっと大変というところがあって、趣向がそっちへ行ってしまいます。

N そういうのは自分でうまくいかない。あるいはやりたくないの。

S やってみたいのだけれど、やってみるとちゃんと魅力的ではないと自分で分かってしまうわけです。

N 統一していくよりは分裂させていく方が自分ではきっと面白いのですね。そういう物を突き動かすものは何なのですか。その人の資質だといつてしまえば簡単なのですが、何がそっちに行かすのだろう。

S 例えば小さい時に習った日本舞踊は、やはり歌舞伎とかそういう物の系列だが、歌舞伎みたいなものは、やはり山姥を演じたり、女郎蜘蛛のようなものが出てきたりとか、七変化していくでしょう。自分の資質としてああいうものにどこか魅力を感じている所があると思います。だから近代劇みたいなものが苦手よね。何か近代劇で向きそうなものを蜷川さん演じてよ。

N 分かった。そういうものもやってみたい気がするんだ。次に白石さんとやる時には、ちょっと新しい白石さん、新しい蜷川幸雄像でいいける。これが結論かな。

S わー、やった。(拍手)

影の国シェイクスピア・シリーズ第16弾

『コリオレイナス』

異文化の架け橋として

1~2月の影の国さいたま芸術劇場での初演の後、4月にはロンドン、バービカン・シアターでの公演を控えている『コリオレイナス』。1983年、初めて海外公演して以来、蜷川幸雄演出の作品は度々、海を越えてきたが、外国でも理解され、評価されるのは何故か。

蜷川へのインタビューから、

異なる文化に対する洞察と日本人としての深い思いが見えて来た。

文・木俣 冬（ライター）



蜷川が目指すのは、徹底した 「アジアのアイデンティティー」

以前、蜷川幸雄の世界公演地図をつくったことがある。1983年の『王女メディア』イタリア、ギリシャ公演から、毎年一度、どこかしら海外公演を行っている蜷川の足跡を図で確認したかったから。すると、アメリカ、ヨーロッパ、アジア……と世界地図の殆どが埋め尽くされた。けれど蜷川は言う。世界進出双六をやっているわけではない。

2006年の蜷川は『タイタス・アンドロニカス』を、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーが主催するシェイクスピアの祭典〈コンプリート・ワーカス〉で上演した。「蜷川がいなければハムレットのないシェイクスピアみたいなものだ」とイギリス人に言われるほど蜷川シェイクスピアは信頼が厚い。蜷川のギリシャ悲劇もギリシャ本国で本質を捉えていると評価が高い。普遍的なテーマの下には世界に境界はない。蜷川の演劇は示してくれる。独特的なジャボニズム表現が受けけるからといって、それに頼っては真の異文化理解にはならない。『タイタス～』ではあるシーンに歌舞伎調の動きを用いようとしながら、試行錯誤の結果蜷川はあえて排除した。

蜷川が目指すのは、媚びたジャボニズムではなく徹底した“アジアのアイデンティティー”。ゴールド・シアターの40人強の高齢者たちに、『タンゴ・冬の終わりに』の88人の幻の観客を演じる若者に、ひとりひとりの個人史を表現させることができ。“アジアのアイデンティティー”につながっていく。最近しきりにこの言葉を用いる蜷川に“アジアのアイデンティティー”と海外公演の関係について聞いてみた。

「自分の作品を海外でやる時は、民族的な衣装や、ある種の日本的なアジア的な感性を表面に出したほうが受けやすい。その時に、もっとユニバーサルにするのか、アジアを強烈に押し出しながら、彼らの期待するアジア人の本質を見せていくのか。その選択に自分自身のアイデンティティーがあると思うんです。異文化に身を置くことによって、余計に、自分の立っている位置を、自分の根柢を問わざるをえないところに追い込まれるし、何を選択するのかを

明瞭にせざるをえないんです。海外で公演するということは、日本人としてアジアの人間として、それを通り越した普遍性を獲得できるのかという問題を常に抱えながらやっていくことです。今はそれをどんどん鮮明にしていこうかなと思っています」

『コリオレイナス』を引っさげ イギリスで真剣勝負

2007年の蜷川は、4月に『コリオレイナス』をイギリスで上演する。エリート対群衆を描いた戯曲に、アジア特有の群衆パワーを注ぎ込み、イギリスに挑む。「西欧的な洗練や観念に収斂していくもののじゃないものをやりたいですね。論理だけでは済まない、もっと様々なものを含んで混沌とした世界を提示することがアジア的な世界観なのだと思います。それには出演者も大勢確保します。海外公演で大人数だと経済的にも負担がかかるけど、それは譲れません（笑い）」

件のイギリス公演は、ロンドン、バービカン・シアターの主催する演劇フェスティバル〈BITE - バービカン・インターナショナル・シアター・イベント〉10周年を記念した祭典に参加するものだ。蜷川はバービカンで、真田広之が道化役で参加した他はイギリス人のキャストで行った『リア王』(99年)、藤原竜也がデビューした伝説の公演『身毒丸』(97年)、「近代能楽集」(01年)、「ハムレット」(04年)の上演などを行い、信頼を深めてきた。

「バービカンは、客席に通路がなくて、稽古中、客席から舞台まで行くのが大変なんです。でも、気に入った公演には、スタッフが客席から舞台へ橋をつくってくれるんですよ」(蜷川)

まさに異文化の架け橋！「バービカンの食堂で、ジュディ・デンチやピーター・ホールと交流して、彼らが芝居の出来が気に入らなくて三日間お客様を帰らせ続けた…なんて生々しい話を聞くと刺激になります。僕もそんなことをやってみたいよ（笑い）」

蜷川は自身と日本（ひいてはアジア）を背負って、今年もまた世界に立ち向かっていく。

Story

貴族であるケイアス・マーシア（後のコリオライナス／唐沢寿明）は、尊大なためローマ市民たちに敬遠されている。だが、ローマと対決するタラス・オーフィディアス（勝村政信）率いるウォルサイ人に勝利し、その首都コリオライを陥落させた功績により、コリオレイナスという名が与えられ、執政官に推される。正式に就任するには市民の許諾が必要なため、しぶしぶコリオレイナスは慣例どおり粗末な服を着て市民の前に出る。しかし、護民官のブルータスとシニアスにけしかけられた市民により、弾劾されてしまう。誇り高いコリオレイナスは、一度は母親のヴォラムニア（白石加代子）の説得に応じるもの、市民に謝罪せず追放の身に、自分を追放したローマに復讐するため、コリオレイナスはかつての敵オーフィディアスと手を組む、再びウォラムニアの必死の説得で、ローマと和解することを決意する。その彼を待っていたのは……。

影の国シェイクスピア・シリーズ第16弾 『コリオレイナス』

【日時】1月23日(火)～2月8日(木)
【会場】影の国さいたま芸術劇場
大ホール

【演出】蜷川幸雄
【作】W・シェイクスピア
【脚本】松岡和子
【出演】唐沢寿明、白石加代子、勝村政信
香寿たつき、吉田鋼太郎、達川哲朗ほか
【チケット料金】好評発売中
A席9,000円 A席7,000円
B席5,000円 学生席2,000円
※各公演前に「さいたまアーツ・センター ライブ」を行います。詳しい内容は、P.9をご覧ください。

影の国さいたま芸術劇場から 海外に渡った蜷川演出作品



©高麗公司

彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾

『恋の骨折り損』 オールメール・シリーズの魅力に注目!

男女の入り組んだ恋の駆け引きが、シェイクスピア劇のなかでも抜群に楽しい『恋の骨折り損』は、男優だけで女性役も演じる。彩の国さいたま芸術劇場のオールメール・シリーズとしては3回目の企画。そもそもはシェイクスピアの存命時には、男優だけで演じるのが通常であったという歴史を紐解けば、このシリーズの新たな魅力が見えてくる。

上段左から
北村一輝 (きたむらかずき)
 ファーディナンド
 映画「ドラマを中心とした存在感のある演技で注目を集めている。最近の主な出演作としてTVドラマ「14歳の母」(NTV)、舞台「愛は松風」(ANB)、映画「恋が如く」(劇場版)〔今春公開予定〕、「風の外観」(今春公開予定など)。



妻暢雄 (きょうのぶ)
 フランス王女
 剧団 Studio Life に所属し、舞台の活動の他、ドラマ・映画にも活躍の場を広げている。主なテレビ出演作にNHK朝の連続テレビ小説「わが家など」、映画「NANA 2」が公開中。



塙塙俊介 (いはづしゅんすけ)
 デュメイン
 TVドラマ「ビーバック」、ハイスクール(TBS)でデビュー以来、映画・ドラマ・舞台などで活躍中。主な出演作として、TVドラマ「冰点」(ANB)、舞台「歩兵の本領」(ANB)、「火火火」(最終兵器彼女)、「スパンカン刑事 コードネーム=麻吉サキ」(22才の別れ)〔今春公開予定など〕。

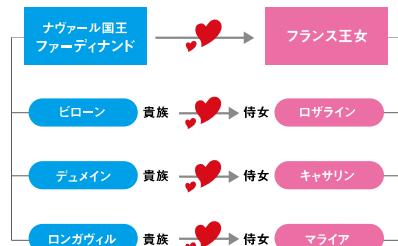


高橋洋 (たかはしよ)

ヒロード
 1998年「ロミオとジュリエット」でデビューして以来、越川演出作品には欠かせない俳優の一人として活躍している。最近の舞台演出作に「間違いの喜劇」「白夜の女と騎士」「われ彼女は娼婦」「タンゴ・冬の終わり」など。



『恋の骨折り損』人物関係図(略)



Story

ナヴァール王国の若き国王ファーディナンドは、彼の側近である3人の貴族、ビローンとデュメイン、ロンガヴィルと共に、女性との交際を一切絶ち、3年間学業に専念する誓約を立てる。ところが、その直後、フランスの王女がお付きの美女3人、ロザライン、キャサリン、マライアを伴い、父の名代としてナヴァール王国を訪ねてくる。この4人にどうやら一目惚れってしまったファーディナンドら4人。けれど、誓いを破るわけにもいかず、なんとか人知れず恋を成就させたい若者たちは、内緒でラフレーを書いたり、それがバレたりと四苦八苦。小姓や牧師らも交え、恋の駆け引き合戦を巻き起こすことになる。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾

『恋の骨折り損』
 【日時】3月16日(金)～3月31日(土)
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 【演出】越川幸雄
 【作】W.シェイクスピア
 【脚訳】松岡和子
 【出演】北村一輝、妻暢雄、塙塙俊介、高橋洋、内田滋、月川悠貴、中村友也、須賀貴匡ほか
 【チケット料金】
 S席9,000円 A席7,000円
 B席5,000円 学生席2,000円
 【購入方法】
 S席9,000円 A席7,000円
 B席5,000円 学生席2,000円

オールメール=演劇の冒険×恋愛の実験

文・前沢浩子

映画『恋に落ちたシェイクスピア』をご覧になったことがあるだろうか。グウィネス・パルトロウ演じるヒロインはどうしても舞台に立ちたて、男装し、女であることを隠してオーディションを受けに行く。シェイクスピアの時代のイギリスでは、風紀を乱すという理由で、女性が舞台に立つことは禁じられていたのだ。13歳の可憐な少女ジュリエットも、野心と罪の意識のために精神を病むマクベス夫人も、当時は少年や若い男性の俳優が演じていた。「お気に召すまま」や「十二夜」など、シェイクスピアの喜劇では女性たちがしばしば男性に扮して活躍する。男装の下に心を隠して恋をするというスリリングな設定を、男優が演じることで、「異性を演じる」という意識が二重に絡み合う複雑なおもしろさが作り出されている。

17世紀後半になるとイギリスでもようやく女優という職業が認められるようになった。成熟した女性の美しさや心理は、少年や若い男性よりもやはり女優の方が細やかに表現できる。だが20世紀後半以降、男性俳優だけのシェイクスピア劇上演が、しばしば試みられるようになった。その目的は、古いシェイクスピア時代の上演様式を復元することではない。むしろ逆に、男優だけの上演によってシェイクスピア劇の中に新しい意味や面白さを発見しようという意欲的な探求だ。一方、女性だけの上演によって、新たな可能性を切り開く試みも行われている。

イギリスには現在、男性だけでシェイクスピア上演を続けている劇団がある。演出家

エドワード・ホール（イギリス演劇界の大御所である演出家ピーター・ホールの息子）が率いるプロペラ・シアターだ。シェイクスピアの劇は、もともと日常の言葉を使って馴染みのある状況を描いているわけではない。豊かに詩的な言語で非日常的な世界を作り上げている。男性だけの上演は、そういう実写を超えた象徴性を持つシェイクスピア劇にこそふさわしいとエドワード・ホールは言っている。あえて男性俳優だけの上演という挑戦をすることで、観客も舞台の俳優たちも、いつもより大きな想像力を繰り広げ、劇の中で新たな経験をする。

『恋の骨折り損』は恋愛実験室のような喜劇だ。3年間、女人を遠ざけて学問一筋に専念すると固い誓いを立てた男たちが、美しい女性たちに会ったとたん恋をしてし

まう。現実離れした理想主義や虚栄心、口マンチックな妄想という男たちの弱点を、女たちは冷静に見抜いてちょっと意地悪をする。ナヴァールという架空の国で繰り広げられる恋の駆け引きは、恋する男と女のサンプルをあれこれ並べて見せてくれる。中でもいちばん天邪鬼で目立たがり屋だった男が、それほど美人でもなく性格も辛口の女にうっかり恋してしまい大慌てする……。恋愛歌謡もあり、恋の甘い幻想への戒めもある。男性俳優だけで男女の恋愛心理を描き出すという「演劇の冒険」を通じ、俳優たちも観客もこの「恋愛の実験」に参加することになるだろう。

まえひらひこ。獨協大学外国語学部英語学科助教授。専門はシェイクスピア演劇。日本シェイクスピア協会委員。主な著作に「冬物語」時を越える昔話 シェイクスピアを読み直す」(研究社)など。

彩の国 さいたま芸術劇場の オールメール・シリーズ



シェイクスピアの時代の慣習に従い、男優だけでシェイクスピアを演ったらどうだろう。越川幸雄の発案により2004年に始まったオールメール・シリーズ。第1弾の「お気に召すまま」(写真上)では、成宮貴匡が男女を鮮やかに演じ分け話題となり、第2弾「間違いの喜劇」(2006年、写真下)でも、内田滋らが初めて女役に取り組み意外な魅力を開花させた。また、このシリーズからは小栗旬など若手を輩出しており、演劇界からも注目されている。

彩の国シェイクスピア・シリーズをもっと楽しむためのイベント案内

「さいたまアーツ・シアター ライヴ!!」 で気分を盛り上げる

『恋の骨折り損』バックステージ・ツアーアンド稽古場見学会の日程が決まりました!

前号でお知らせしました、「恋の骨折り損」のバックステージ・ツアーアンド稽古場見学会の日程が下記のとおり決まりました。参加ご希望の方は、以下の要領でご応募ください。

【申込方法】

ハガキに以下の事項を記入の上、締切日までにご応募ください。ハガキ1通につき1人、料金受付(応募多数の場合は、抽選を行います)。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。

【記入事項】

バックステージ・ツアーアンド稽古場見学会の公演チケット(半券可)をお持ちの方
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【日時】3月18日(日) (開演 13:00 公演終了後)

【内容】舞台芸術家中越司のお話と舞台セットの裏側

(見学可能な範囲)見学(40分程度)

【定員】30名(参加費無料)



【申込方法】

ハガキに以下の事項を記入の上、締切日までにご応募ください。ハガキ1通につき2名様まで)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

【日時】3月4日(土) 13:00～

3月5日(日) 13:00～

(約1時間程度、時間は変更になる場合があります。)

【定員】30名(参加費無料)

【応募特典】

バックステージ・ツアーアンド稽古場見学会の半券(1枚)を購入する方

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

【日時】3月4日(土) 13:00～

3月5日(日) 13:00～

(約1時間程度、時間は変更になる場合があります。)

【定員】30名(参加費無料)

【応募特典】

バックステージ・ツアーアンド稽古場見学会の半券(1枚)を購入する方

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

【日時】3月4日(土) 13:00～

(約1時間程度、時間は変更になる場合があります。)

【定員】30名(参加費無料)

構成: 鴨澤章子



ヤン・ファーブル

わたしは血

終わることのないファーブルの謎解きゲーム

ダンスやアートなど既成の枠に捉われず、自在な表現活動をするヤン・ファーブルには、多くのクリエイターやアーティストたちも注目している。

自身も、ファッションモデル、ダンサー、デザイナーなど多面的な活動をしている山口小夜子さんもそんな一人。ヤン・ファーブルが日本で初めて公演して以来、美術作品や舞台を観てきたという山口さんが『わたしは血』に込められたファーブルの真実に迫る。文・山口小夜子

©WONGE BERGMANN

J E S U I S S A N G

ヤン・ファーブルの「劇的狂気の力」が東京で初めて上演されたのは、確かバブル期真っ只中の86年だったと思う。残酷なまでに延々と繰り返される反復運動に怒って帰る観客が居たほど、衝撃と戸惑いを持って受け止められた作品だった。以来、わたしはヤン・ファーブルのシアターワークやドローイング、インスタレーション等の美術作品を折りに触れて観るチャンスがあり、いつの間にかファーブル作品の謎解きゲームの迷宮にひとり迷い込んで抜け出せないでいる。

ビックのボールペンで執拗に塗り潰されたインクの青い霧が立ち込める空間、降り注ぐガラスの欠けら、天空から落下する夥しい数の白いお皿が床の上で碎け真っ白な破片がめまいのように飛び散る瞬間、甲虫の羽にびっしり覆いつくされ

緑色に輝くブリュッセル王宮の広間の天井とシャンデリアの煌めき、天井に吊られたグランドピアノ、瓶から滴り落ち続けるオリーブオイルは、永遠の時を刻むよう舞台の床を濡らして行く。そしてそれらを全身で受け止め同化する人体(達)は、戦士のように凜々しく崇高なまでに堂々と観客の前に立ち続ける。ファーブルの衝撃的なシアターワークは何時も事件であり、その都度、影の如く論争が付きまとう。

口論や論争は、ファーブルが人間の本質を探り出そうとするあまり、舞台上のセオリーにおいてはターバーに近い領域にまであえて踏み込んで行くからなのだと、わたしは思う。

既成の演劇やダンスやオペラというカタゴリーから逸脱するファーブルの独自な

舞台創作の不思議は、出演者をどんなにトランス状態に追い込んだとしてもけして気品を失わせず、詩的世界の美を冷静に保ったまま、中世ヨーロッパの伝統的な在り方をロックを伴った現代から未来へ向う文脈の中に息づかせて、人間の奥に潜む本能を赤裸々に暴き出し、まるで不協和音の楔を打ち込む儀式のように観客に問いかけ、リアリティーと想像力を問われているのかもしれない。

わたしのファーブル謎解きゲームは、まだまだ最終地点に辿りつかなさそうである……。

演者達は恰も生贋に選ばれるが如くテーブルの上で、身体という檻の中に詰まっている間を、客席へと吐き出す。願望・欲望・病・苦み・痛み・情念・錯乱・固定観念・生と死。

ダンサー達の限界へと向うステップや俳優達がさらけ出す汗、詩を読む声が次第に血の叫び声になり、血の汗となり、血のステップが踏まれる。

汚れ一つ無いコスチュームや身体がだんだん血に染まり血にまみれゆく。血の言葉と血の身振り、血にまつわるターバーが、愚かさや可笑しさを交えて、バベルの塔の下で行われた宴席ながら、肉食人種と草食人種の違いこそあれ不变的な人間の生理と本能をさらけ出しテーブルの舞台の上で繰り広げられる。それはファーブルが演者の身体を通して観察してきた抽象的なイメージやフォルムが標本のように集積されたページを観ているようである。……と書いていたら、ふっと、気がついた。

もしかしたら一番観察されているのは様々な人間の生態を集めた標本を目の前に突きつけられた観客なのかも知れないということを。

きっとファーブルは、この作品を観たあなたの方は何を想像し、何を感じ、どのような解答を持っているのかと、その想像力を問われているのかもしれない。

わたしのファーブル謎解きゲームは、まだまだ最終地点に辿りつかなさそうである……。

ヤン・ファーブル 演出・振付・舞台美術・テキスト 『わたしは血 JE SUIS SANG』

人間の本質は、中世以来、変わっていない! 「血」をテーマに描き出される人間の本性。ヤン・ファーブルが、美術家としての才能を遺憾なく発揮した舞台は、どのシーンをとっても絵画のように美しい。アヴァニコン・フォ・スタイルルを震撼させた衝撃作品だ。

【日時】2月16日(金)開演19:30

17日(土)開演16:00

18日(日)開演16:00

【会場】

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『わたしは血 JE SUIS SANG』——中世狂想物語——

【演出・振付・舞台美術・テキスト】ヤン・ファーブル

【出演】俳優、ダンサー、ミュージシャン 23名

【チケット・料金】発売中

一般S席7,000円 A席5,000円 学生A席3,000円
メンバーズS席6,300円 A席4,500円

talk・talk・talk 第3回 山口小夜子 × 蟹川幸雄

「着ることには空気や音楽、ある時は建物まですべてが含まれている。」

昨年10月に彩の国さいたま芸術劇場で行われた、山口小夜子さんと蟹川幸雄との対談「talk talk talk」。以前から親交のある二人の間で交わされた刺激的な会話から一部を抜粋してお届けしよう。

蟹川(以下N) 山口小夜子さんには、十数年前に初めてファッションショーの演出をした時に出て頂きました。それは本当に素敵で、それまでのファッションショーという概念が崩れて、ダンサーのように自在に、着ていた衣装を脱いで引きずったり、羽織ったり、一枚の衣装を多彩に魅せてくださいました。世界的なトップモデルとして活躍と同時に、パフォーマーであり、ダンサー、デザイナー等多方面でそれぞれのジャンルを飛び越えて活躍していらっしゃいますが、今ご自分を紹介するとしたらどう言いますか。



山口(以下Y) 私のテーマは「着る」ということです。衣服を着ることもそうですが、ここにある空気も衣服の中に含んでいますし、布の中にも空気を含んでいるので、それらも同時にまとっていると考えています。だから、この建物や、私たちの身体自身、身体も心が着ているのだと思っています。映像を使って最近はパフォーマンスをしていますが、映像を着る、音楽を着る、照明も着ているという観点に立っています。私は着るというテーマで考えると、物事が解明できるのです。

N ダンサーの方とお仕事をなさいますが、そういう時はどう考えるのですか。

Y 私は勤使川原三郎さんの作品に出演させていただき、10年ほど海外ツアーをご一緒させていただきましたし、山海塾の天兎牛大さんとは長くお仕事もさせて頂いていますが、そこで感じるのは「身体と心の関係」「皮膚」とか「鏡像」とか、自分たちの中にある細かな部分に意識をつなげてみようということがまずは基本にあると思います。

N 小夜子さんはモデルから出発し、演劇やダンスなど身体を使った表現者として何かをやっていくという、そういう越境する楽しみが小夜子さんの中にあります。あなたが持つエネルギーがとてもいいですね。

Y ファッションの仕事を始めた年と同じ年に東由多加さん、寺山修司さんとお仕事をしています。モデルの仕事を偶然といいますか、流れるようにそうなってしまっただけで、舞台の表現にはとても興味がありましたので、だから同時だったのです。

N 外国でデザイナーの方の仕事をたくさんやったと思いますが、その経験はもちろん大変刺激的だと思いますがどうですか。

Y 演劇もそうだと思いますが、ファッションは一番新しい、未来を見つめる音楽、色、形、美術的な要素、建物、そういうものが混然一体となったものがデザインされた服に集約されていると思います。そこに私もかかわっていく中で、常に新しい音、音楽を知りたいなくてはいけないため、いま街中で何が流行っているかも分かっていないと歩けなくなったりします。最近、アートの世界では服を題材にしたアーティストが出てきています。服の形で表現し、布で表現するアートを今、私は興味深く見ています。



やまぐちさよこ。ファッションモデルとして、パリ及びニューヨークコレクションで活躍。同時に映画、演劇、ダンスコンテンポラリーなど国内外の数々のクリエイションに参加。出演作品の衣装スタイルや自身のブランドのプロデュース、またオペラ、シェイクスピア劇の監修を担当。最近は映像作家と音楽のミックスを組み入れたコラボレーションなど様々なアーティストとジャンルの枠を超えた活動をしている。

photo:幸田 森 構成:鶴澤章子

ヤン・ロワース&ニードカンパニー 『イザベラの部屋』



Jan Lauwers & Needcompany **LA CHAMBRE D'ISABELLA**

ダンスや歌も交え綴られる作品で、新しいステージ体験を

彩の国さいたま芸術劇場に、2004年アヴィニヨン・フェスティバルで話題をさらった「イザベラの部屋」が登場する。

この作品が日本では初めての公演となる。

ヤン・ロワース&ニードカンパニーは、

実験演劇の騎手として、ヨーロッパ演劇界では旋風を巻き起こした集団だ。

ダンスや歌も交え綴られる作品で新しいステージ体験をしたい。

文・佐藤友紀(ライター)

ダンスと歌で描かれる主人公たちの心象風景

“We just go on”という歌で始まり、デヴィッド・ボウイのヒット曲“ジギー・スターダスト”も使用される本作は、演劇とダンス、コミカルなスケッチが融合した非常にエキサイティングな表現形態。例えば、若くして亡くなったイザベラの養母アンナの葬儀は、男たちにリフトされたアンナが鳥のように空を切る美しいムーブメントで表されている。

もちろんこうしたダンスには、少女にも老女にも振れるイザベラ自身も参加。もっとも、より激しい動きを見せてくれるのは、イザベラの両面性を象徴している「快活な妹」と「意地悪な妹」の二人のダンサーで、彼女たちのアクロバティックなダンスは、90年という年月を生きたイザベラのエネルギーそのものとも言えるだろう。

フランス語、フラン西語を中心、時おり英語、ドイツ語も入るテキストは、イザベラの人生だけでなく、20世紀そのものも語り尽くす。二つの世界大戦はもちろん、彼女の愛人のひとりが目撃したという広島の原爆にも触れる。それらのすべてが展開されるイザベラの部屋は、時間も空間も超え、どんな次元にも変化していく。何しろ彼女の見聞は、アフリカから極東アジア、月への有人飛行まで及ぶのだから。

恋多きイザベラの人生はまるでマルグリット・デュラス

と同時に、イザベラの人生を味わい深いものにしているのが、「74人いた」と彼女が豪語する恋人たちの存在。特に孫のような年格好の青年との恋は、作家マルグリット・デュラスや映画監督・写真家レニー・リーフェンシュタールなど20世紀の烈女を思わせ、爽快感すら覚えるほどだ。

膨大な数の骨董品で埋め尽くされた部屋の中、出演者全員が歌い、超絶技巧を披露する4人の中心ダンサーと共に踊り、ライブ演奏をし、イザベラの人生を語り合う。この圧倒的なパワーの前では、途中で明らかになるイザベラの出生の秘密も、もうどうでもよくなってしまう。ヤン・ロワースと仲間たちが創り出す混沌を共有することこそ、新しいステージ体験と言えるだろう。

ヤン・ロワース&ニードカンパニー 『イザベラの部屋』(日本語字幕付) NEW

古代エジプトやアフリカの発掘品、骨董品にあふれた部屋に暮らす盲目の老女イザベラ。彼女は20世紀のほとんどを生きてきた。第一次世界大戦、第二次世界大戦、ヒトラー、植民地主義、ジョイスやピカソのモダンアート、月への有人旅行、デヴィッド・ボウイの「ジギー・スターダスト」……。

9人の俳優、ダンサー、ミュージシャンが、イザベラの部屋の秘密を解き明かし、彼女の生涯をたどる。ダンス、演劇、音楽が混交した革新的な舞台表現によって超いあけられる、全ての情報。

【日時】4月6日(金) 開演 19:00 / 7日(土) 開演 15:00 / 8日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【公演】『イザベラの部屋』(2004年初演) 【構成・演出・舞台美術】ヤン・ロワース

【キャスト】ヤン・ロワース、アネーケ・ボネマ(脚本)・触つきモノローグ

【音楽】ハンス・ベーテ・ダール、マールテン・セガース 【脚本】ヤン・ロワース、アネーケ・ボネマ

【上演】俳優、ダンサー、ミュージシャン 10名

【チケット料金】一般 6,000円 A席 4,000円 学生 A席 2,000円

メンバーズS席 5,400円 A席 3,600円

【発売日】メンバーズ 1月20日(土) 一般 1月27日(土)

ベルギー出身の前衛的な舞台芸術家“ヤン”と言うと、日本ではまずヤン・ファーブルが想起されるだろう。本年、彩の国さいたま芸術劇場にて『わたしは血 JE SUIS SANG』公演(P.10 ~11 参照)が予定されている奇才と、ヨーロッパでは並び称されているのはヤン・ロワースだ。アントワープに生まれたロワースは、ファーブルとは1歳違い。美術を背景に結成したカンパニーが、80年代初頭から実験的演劇集団として注目を集め始める。オリジナル作品のほか、シェイクスピアを翻案演出した作品も発表。暴力、愛、エロティシズム、そして死をテーマに、演劇とその意味を問い合わせ革新的な舞台表現で、国際的な評価を得た。ファーブルが人間の暗部を真正面から捉えて、陰だとすれば、ロワースは陽であり、絶望感の中にもどこかユーモラスでさえある。『イザベラの部屋』は、ロワースの父へのオマージュとも言われ、彼の私的な眼差しが描かれている作品。日本で初めてとなるこの公演で、彼の名は二人目の“ヤン”として、日本の舞台ファンの間にも記憶をとどめられることとなる。



Jan Lauwers

ヤン・ロワース

1957年アントワープ生まれ。ゲント美術学校で学んだ後、79年にアート集団エビゴーネンアンサンブルを結成。このアート集団は81年にエビゴーネンシアターと改称した演劇集団となり、相次いで発表した演劇作品6作により演劇界に旋風を巻き起こした。85年にエビゴーネン・シアターを解散し、翌年(86年)、ニードカンパニーを創立。2000年にはウィリアム・フォーサイスの依頼によりラングフレット・ハレ工団と共同制作した「Dead Dogs Don't Dance」(James Joyce Dead!)を上演。「イザベラの部屋」は、2004年のアヴィニヨン・フェスティバルでの初演以来、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリアの各都市で130回以上の上演を重ねている。映画やビデオ作品も多数制作しているほか、2007年には美術作品を集めた初めての大規模個展がブリュッセルで開催される予定。

「コンドルズ埼玉スペシャル公演2007」決定! チケット販売も間もなく開始。

NEW

昨年5月に上演された「勝利への脱出 SHUFFLE」が絶賛を博した「コンドルズ」が、1年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場に登場。

今年はどんな舞台を見てくれるのか。乞う期待。

【日時】5月12日(土) 開演 17:00

13日(日) 開演 13:00 / 開演 18:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【公演】2007年新作【タイロル未定】

【構成・映像・振付】近藤良平 【出演】コンドルズ

【チケット料金】

一般 前売4,000円 当日4,500円 学生2,000円

メンバーズ 前売3,600円 当日4,050円

【発売日】メンバーズ 2月3日(土) 一般 2月17日(土)



構成:鶴澤章子



ピアニスト100

100人を聴く10年、ついにフィナーレ

音楽監督:中村紘子
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

10年で100人のピアニストを紹介する前代未聞のプロジェクト「ピアニスト100」。
後半の第51回(2002年4月)からは、
音楽監督に世界的ピアニストの中村紘子さんをお迎えし、
バラエティに富んだ人選でご紹介してきたが、いよいよ3月で幕を閉じる。
99番目にはレイフ・オヴェ・アンスネスさんが登場。そして、昨年11月に行われた
「第6回 浜松国際ピアノコンクール」第1位のアレクセイ・ゴルラッチさんが、
どこよりも早く、この彩の国さいたま芸術劇場でリサイタルを行う。

100 /100 ピアノ界の未来を託して、
フィナーレを飾る若き期待の星

アレクセイ・ゴルラッチ

(ウクライナ)

「ピアニスト100」シリーズの最後を飾るピアニストは昨年11月に開催された第6回浜松国際ピアノコンクールの優勝者アレクセイ・ゴルラッチ。ガヴリリュク、コブリン、プレハッチなど素晴らしい才能を発掘してきたHAMAMATSUから生まれた新しいスターだ。ウクライナ生まれの18歳。両親の仕事の関係で4歳からドイツで暮らしている。ピアノを始めたのは7歳のとき。優れた教師の下で恵まれた才能を開花させ、一昨年は最年少の17歳でショパン国際ピアノコンクールに参加して第2次予選まで進み、その瑞々しい音楽性で注目を集めた。彼の魅力は、美しい音色と素直で正統的な音楽づくり。それに加えてステージに現われただけで周りを明るくするような爽やかな容貌。浜松のコンクールでは、超絶技巧系のロシアものやリストの作品を演奏する参加者が多い中で、ベートーヴェンを中心に地味なプログラムを選んで真摯に自分の音楽を追求する姿が印象的だった。シリーズの最後を飾るにふさわしい未来を担うピアニストの出現を心から喜びたい。 文・森岡葉(音楽ライター)

Alexej Gorlatch

PROFILE

1988年5月23日生。ウクライナ、キエフ出身。G.ゲオルギュー、M.ヒュック、K=H.ケマーリングに師事。2002年エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール、2003年ハンブルグ・スタイルンウェイコンクール第1位、2006年国際アワグスト・エファーディングコンクール(ミュンヘン)第1位、第6回浜松国際ピアノコンクール第1位及び日本人作品最優秀演奏賞を受賞。現在ハノーファー音楽大学在学中。

【日時】3月10日(土) 開演 16:00

【曲目】シューマン:幻想小曲集 Op.12
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第28番 1長調 Op.101
徳山奈奈子:ムジカ・ナラ ~ピアノのために~
ショパン:12の練習曲 Op.10

【チケット(税込)】 好評発売中

一般 S席 3,000円 A席 2,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円 メンバーズ S席 2,700円



99/100 音楽への直截な情熱
傑出した存在感をもつ北欧の俊英
レイフ・オヴェ・アンスネス
Leif Ove Andsnes(ノルウェー)



第99回に登場するのは、ノルウェー出身のレイフ・オヴェ・アンスネス。北欧ノルウェーは作曲家グリーグの祖国として知られるが、ピアニストを次々に排出した歴史はない。そのためちょっと珍しいピアニストかと思いきや、演奏を聴いてみると実にノーマルでオーソドックスで、ヨーロッパの最も正統的な音楽を再現してくれるピアニストである。

彼のレパートリーはグリーグやシベリウスなど北欧の作品はもちろん、ラフマニノフなどのロシア作品、他にはベートーヴェン、シューベルト、ショパン、ブラームスなどが中心で、一般的なレパートリーと言えるもの。ところがCDを見てみると、全体数の割に協奏曲や室内楽が多いように思われる。さらにユニークなのは、ソロの余白に歌曲を添えたりと、アンサンブルの領域を積極的に取り入れていることが伺える。

ピアニズムばかりではなく、音楽のより総合的な視点を大切にする「音楽家」のピアノからは、作品の本来の姿を素直に感じさせてくれるであろう。文・諫山隆美(音楽評論家)

●PROFILE 1970年ノルウェー生まれ。ベルゲン音楽院でイアン・フランカ氏に師事。90年代初めに世界デビューして以降、一流オーケストラ・指揮者との共演、リサイタル、室内楽などで活躍。リゾール音楽祭の共同芸術監督として世界的なアーティストを招く一方、自身も欧州各地の音楽祭の常連。レコード録音数も多くの度のグラモフォン・アワード受賞を持つ。2002年ノルウェーで最高の栄誉とされる聖オラフ・ロイヤル・ノルウェー上級勲章受賞。

【日時】2月10日(土) 開演 16:00

【曲目】シベリウス:キュリッキー — 3つの抒情的小品 Op.41
グリーグ:ノルウェー民謡による変奏曲形式のバラード
ト短調 Op.24
シェーンベルク:6つの小さなピアノ曲 Op.19
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 Op.111
★中村紘子音楽監督によるトーク付き

【チケット(税込)】 好評発売中

一般 S席 4,000円 A席 3,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円

仲道郁代 ~デビュー20周年を記念して~ ピアノ・リサイタル

日本を代表する人気ピアニストのひとり、仲道郁代さんが
彩の国さいたま芸術劇場のための特別プログラムで登場。
このリサイタルに寄せられた仲道郁代さんのメッセージには、
ピアノへの熱い想いが込められている。

MESSAGE

彩の国さいたま芸術劇場で、
デビュー20周年記念コンサートを行えますこと、
心から嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

ベートーヴェンとともに、私自身を成長させてくださった皆さまと
これまでたくさんの思い出を重ねてきた劇場で
私のこれまでの歩みを振り返りつつ、
これから私の姿を聴いていただけるようなコンサートにしたいと願っております。

お届けするプログラムは、オール・ショパン・プログラム。
デビュー以来引き継ぎてきたショパン。
ピアノの持つ響き、ピアノにしか出せない音の魅力、
そしてピアノが表現する世界のすべてを、存分にお聴きいただけると幸いです。

昨年3月まで4年間全12回にわたって、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲についてのレクチャー・コンサートで、彩の国さいたま芸術劇場ではすっかりお馴染みの仲道郁代さんが、デビュー20周年を記念する今シーズン、オール・ショパン・プログラムで登場する。

ショパンといえば、「ピアノの詩人」とも称せられているとおり、その作品はピアニストにとっては欠かすことのできない重要なレパートリー。彼女にとって、デビュー以来、いつも傍にいた作曲家である。そのショパンの作品から、バラード全曲、《2つの夜想曲》作品48、そしてソナタ第3番をチョイス。ピアノの魅力をあますところなく味わえる充実のプログラムは、ここ彩の国さいたま芸術劇場のために特別に組んでもらったものである。

IKUYO NAKAMICHI

仲道 郁代

なかみち いくよ

古典からロマン派までの幅広いレパートリーで、独奏者・オーケストラのソリストとして国内外で活躍。5年には、英国チャーチルズ皇太子夫妻ご臨席のもと、イギリス室内オーケストラ主催の「結婚祝祭コンサート」に出演し絶賛された。2003年からは、地域社会の活性化や音楽文化の発展を目指し、大阪音楽大学特任教授、財団法人地域創造理事としても活動中。デビュー20周年にあたる2006/2007シーズンは、全国各地で記念リサイタルを行っている。
<http://www.ikuyo-nakamichi.com>

仲道郁代 ピアノ・リサイタル ~デビュー20周年を記念して~

【日時】3月4日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】
～オール・ショパン・プログラム～
バラード第1番 ハ短調 Op.23、バラード第2番 ハ長調 Op.38、
バラード第3番 宮・長調 Op.47、バラード第4番 ハ短調 Op.52、
夜想曲第13番 ハ短調 Op.48-1、夜想曲第14番 要ハ短調 Op.48-2、
ピアノ・ソナタ第3番 ハ短調 Op.58
【チケット(税込)】 好評発売中
一般 S席 4,000円 A席 3,000円 学生A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円



© Katsuro Ueda

人気企画「ピアニスト100」を受け継ぐ待望の新企画

ピアノ・エトワール・シリーズ *Etoile*

彩の国さいたま芸術劇場の人気企画としてすっかり定着した「ピアニスト100」も、とうとう3月にはフィナーレを迎える。これに代わり始まるのが、「ピアノ・エトワール・シリーズ」。注目の新鋭ピアニストが続々登場する、更に新しい発展が期待できそうな新企画だ。



ラファウ・ブレハツチ Rafal Brechacz

1985年ボーランド生まれ。2003年浜松国際コンクール第2位（1位なし）、04年モロッコ国際コンクール優勝。さらに05年のショパン国際コンクールで、ソミエルマン以来30年ぶりのポーランド人の優勝を果たすとともにすべての副賞を受賞。現在はボボワ＝ズイトロン教授に師事しながら、世界各地で演奏活動を始めている。

イリヤ・ラシュコフスキイ Ilya Rashkovskiy

1984年ロシアのシベリア生まれ。98年ウラジミール・クライネフ国際コンクール優勝、2001年ロンドン=ディーボー国際音楽コンクール第2位、05年香港国際ピアノ・コンクール（審査員長：アッシュケナージ）優勝。02年に初来日。自在な表現、音楽性の高さ、卓越した技巧は日本の聴衆からも絶大な支持を得ている。



デイヴィッド・グレイルサンマー David Greilsmann

1977年イスラエル生まれ。6歳でアメリカ・イスラエル賞受賞。2004年ユーリード国際協奏曲コンクールで、ショーハルフの協奏曲をアメリカ初演して優勝。以後、世界各地で活動の場を広げている。06年発売のモーツアルトの初期ピアノ協奏曲を弾き振りしたCDは、ル・サンード紙をはじめ主要紙から高い評価を得ている。



小菅 優 YU KUSUGE

1983年東京生まれ。10歳よりヨーロッパに住み、演奏活動を重ねる。2000年、ショパンの練習曲集録音が、ドコム最大の音楽批評誌「オノ・フォルム」で5つ星を獲得。02年新日本放送音楽賞、04年アメリカ・ワントン賞受賞。06年8月のザルツブルク音楽祭で、日本人ピアニストとしては2人目のリサイタル・デビュを成功で飾る。

10年間にわたった「ピアニスト100」も、21世紀を担う若い才能に未来への希望を託して終了する。その期待の想いを受け継いで、新たに始まるのが、「ピアノ・エトワール・シリーズ」。フランス語で「星」を意味する「エトワール」という文字通り、期待の星達の演奏をお届けしようというこの企画、出演するのはいずれも、並外れた音楽性と技巧を併せ持つ、30歳以下の「未来の巨匠たち」。ショパン・コンクール優勝で一躍注目を集めたブレハツチ、17歳でロン=ティボー・コンクール第2位に輝いたラシュコフスキイ、自らが結成したアンサンブルとともに開始したモーツアルトの協奏曲録音で評価の高いグレイルサンマー、そしてザルツブルク音楽祭で内田光子以来日本人としては2人目のリサイタルを成功させた小菅優。おのれ得意のレパートリーで構成したプログラムで充実の演奏が聴けるに違いない。どうぞお聞き逃しなく！

ピアノ・エトワール・シリーズ

【公演内容】

Vol.1 ラファウ・ブレハツチ 6月17日(日)開演 16:00
ショパン『24の前奏曲』より第13～24番 ほか

Vol.2 イリヤ・ラシュコフスキイ 9月8日(土)開演 14:00
ショーハルフの即興曲 Op.90 ワーグナー＝リスト＝イゾルデの恋の死 ほか

Vol.3 デイヴィッド・グレイルサンマー 11月23日(金・祝)開演 14:00
モーツアルト:幻想曲 ハ短調 KV475 グラナドス:《コイエスカス》より《愛と死》 ほか

Vol.4 小菅 優 12月9日(日)開演 15:00
バッハ:インヴェンションとシンフォニア 全曲 リスト:ピアノ・ソナタ 口頭譜 ほか

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【チケット(税込)】

●4回セット券 S席セット 12,000円/A席セット 8,500円
※シートを通して席を指定できる「マイ・シート」お問い合わせの席でお越しください。

●1回券

S席 3,500円/A席 2,500円 学生A席 1,000円
メンバーズS席 3,150円

【発売日】

●4回セット券 メンバーズ 2月3日(土) 一般発売 2月10日(土)
●1回券 Vol.1 メンバーズ 3月3日(土) 一般発売 3月10日(土) Vol.2以降は直次発売いたします。

NHK

天使の歌声で至福のひとときを。

ウィーン少年合唱団

日本でもすっかりお馴染みのウィーン少年合唱団が、

彩の国さいたま芸術劇場に初登場！

“天使の歌声”と称えられる澄んだ合唱は、

今も世界中で多くの人々を魅了してやまない。

その歌声に酔いしれる、至福のひとときを味わいたい。



© Lukas Beck

500年以上に及ぶ歴史には
音楽の巨星もズラリ

日本にも度々来日し、幅広い層のファンを持つ
ウィーン少年合唱団だが、その始まりは500年以上
も前に遡ることは意外にあまり知られていないかも
しない。

時は1498年。神聖ローマ皇帝マキシミリアン1世が宮廷を
ウィーンに移した際のことだ。宮廷に伴い宮廷音楽家も移動したが、その際に6人の少年を含めるべき、との厳命によって、宮廷
楽団、ひいては宮廷少年合唱団の礎が築かれたのだ。以後、この
宮廷少年合唱団は、オーストリア＝ハンガリー帝国が解体される
1918年まで、宮廷のためだけに演奏していたのである。その長い
歴史の中には、共演者として、ハイリヒ・イーザク、クリストフ・
ヴィリバルト・グリック、ウォルフガング・アマデウス・モーツアルト、
アントン・ブルックナーらが、また団員として、ハイドン兄弟（代理
メンバーとして）、フランス・シーベルトらの名前が、きら星のご
とく登場する。

しかし、その輝かしい歴史にもかけがりが見える時代があった。
1918年の帝国崩壊により、少年合唱団は危機に瀕したのだ。そ
の苦難の時期を救ったのが、1921年より王宮礼拝堂長を勤めた
ヨーゼフ・シュミット。彼は合唱団を私立の社団にして、「ウィーン
少年合唱団」として活動を継続。王宮礼拝堂以外に、海外にまで
活動の場を広げたのである。その後の活躍ぶりは、よく知られる
ところだ。

年間50万人の聴衆を魅了し、
レパートリーも幅広く活動

現在は、10歳から14歳のメンバー約100名が、4つのグループ
に分かれて活動している。この4合唱団が開催するコンサートは、
年間約300回、実に50万人にも及ぶ聴衆を集めているという。
海外へのツアーはもちろんのこと、現在もウィーン・フィルハーモニ
ー管弦楽団やウィーン国立歌劇場合唱団のメンバーとともに、
宮廷礼拝堂での勤めも重要な役目であり、帝国の伝統を今なお受け
継いでいる。

最近では、レパートリーもクラシックにとどまらず、ポップスや
世界の音楽にまで広がり、クロス・オーバーのプロジェクトに参加
したり、子供オペラに継続的に取り組んだり……などなど、その
活躍ぶりはとどまるところを知らない。



NEW

速報！

ブラスの最高峰、
ニューヨーク・フィルの
ブラス・セクションの
名手達がやってくる！

ニューヨーク・フィル・ブラス・クインテット

【日時】7月7日(土)開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【チケット(税込)】一般 4,500円 学生 1,500円 メンバーズ 一般 4,050円

【発売日】メンバーズ 2月17日(土) 一般 2月24日(土)

※出演メンバーについては、次号でお知らせいたします。

PICK UP では紹介しきれなかった公演情報 EVENT INFORMATION

3.17

光の庭プロムナード・コンサート

オルガン・ミニ・コンサート 監修：鈴木雅明 構成：大塚直哉
～受講生によるコンサート～
今年度より始った、「みんなのオルガン講座」。劇場のボジティブ・オルガンを使ったレッスンを1年間受け、その練習の成果を第1期生が「光の庭」で発表いたします。

- ◆ 3月17日(土) 開演 14:00(終演予定17:00) ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
- ◆ 曲目: J.S.バッハ: 小 Preludio BMV927。
ヘルベル: グレイオリン・ソナタ第4番 二長調より ほか
- ◆ 出演: 大塚直哉(おはなし) 「みんなのオルガン講座」受講生 ◆ 入場無料

4.13 NEW

彩の国さいたま寄席 四季彩亭～立川談春

春の四季彩亭は、昨秋の東京芸術劇場1週間連続公演も連日大入り、今乗りに乗っている立川談春が登場。どうぞ楽しみに。

- ◆ 4月13日(金) 開演 19:00 ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
- ◆ 出演: 立川談春、柳家三三(ほか)
- ◆ チケット(税込): 一般 3,000円 メンバーズ 2,700円
ゆうふう割引(学生: 65歳以上) 2,000円
- ◆ 発売日: メンバーズ 2月17日(土) 一般 2月23日(金)

4.14 ~ 源氏語り54帖 NEW

身近な言葉で難解な古典文学を現代によりながら三田村雅子さんの解説と、「生きた古典の言葉」で語る星田弘子さんの朗読で、源氏物語54帖すべてを読み解いていく壮大なシリーズ。光源氏の時代はいよいよ暮を閉じようとしています。



※次回いづみ

- ◆ 第37回 4月14日(土) 「御法」
- ◆ 第38回 7月8日(日) 「幻」
- ◆ 第39回 9月16日(日) 「雲隠」 各回 開演 14:00
- ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
- ◆ 出演: 星田弘子(朗読) 三田村雅子(解説: フェリックス学院大学教授)
- ◆ チケット(税込): 全席指定 1回券 2,500円 第37~39回連続券 6,600円
- ◆ 発売日: メンバーズ 3月3日(土) 一般 3月11日(日)

2007年4月、「彩の国シネマスタジオ」が変わります!

これまで毎月1日(原則第2土曜)の上映だった「彩の国シネマスタジオ」。みなさまの「観たい!」にお応えして、今年4月から、毎月3日間(原則第2金・土・日曜)の上映になります。どうぞ映像ホールで素敵な時間ををお過ごしください。

4.13 - 4.15 「フラガール」 NEW

昭和40年、福島県の傾きかけた炭鉱町を蘇らせるために誕生した常磐ハイワイアントンセントラル。その奇跡の実話を基に、フラダンスショーを成功させるために奮闘する人々の姿を描いた感動のドラマ。若き才能、李相日監督が、松雪泰子、著井優ら女優たちの魅力を見事に引き出している。



- ◆ 4月13日(金) 10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00
14日(土) 10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00
15日(日) 10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00 ※12:45上映回終了後、アフタートークあり。
- ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
- ◆ 監督: 脚本: 李相日 / 羽原大介 音楽: ジェイク・シマクロ
- ◆ 出演: 松雪泰子、豊川悦司、著井優、山崎静代、岸辺一徳、富司純子(2006年/日本/120分)
- ◆ チケット(税込): 全席自由
一般 前売1,000円 当日1,200円 / 小中高生 前売800円 当日1,000円
- ◆ 発売日: 2月10日(土)

**「みんなのオルガン講座～Organ for ALL～」
第2期受講生募集! 講師: 大塚直哉**

劇場のボジティブ・オルガンに親しめる「みんなのオルガン講座～Organ for ALL～」を平成19年度は良い新たに開講。ちょっと弾いてみたい人、発表コンサートを目指してレッスンを受けたい人、好みのコースに奮ってご応募ください。

**●体験レッスン(定員 各回20名)**

【日時】第1回: 4月8日(日) 第2回: 5月12日(土) 第3回: 6月16日(土) <午前>
【対象】鍵盤楽器の経験があり、オルガンに興味のある方
【受講料】各回500円
【申込締切】下記「応募方法」で、各開催日の1ヶ月前同日必着。
応募者多数の場合、抽選。

●基本コース(ソロ 定員 約10名)

【日時】レッスン: 4月8日(日)・5月12日(土)・6月16日(土) <午後>
発表コンサート: 7月16日(月・祝) 第1回 朝生(アンサンブル)と合同
【対象】鍵盤楽器経験が3年程度以上の方で、オルガンに興味のある方
レッスン全3回に出席でき、発表コンサートに出演できる方
レッスン以外で、自宅練習ができる方(練習はピアノ等でも結構です)
【受講料】5,000円、テキスト代(3,000円)別。
※受講料中車両運賃、会場料金は含まれませんのでご了承ください。

【申込締切】下記「応募方法」で、3月8日(木)必着。応募者多数の場合、抽選。

＜応募方法(体験レッスン・基本コース共通)＞
往復はがきの往信裏に住所・氏名・年齢・電話番号・FAX番号・音楽歴・オルガン演奏経験の有無をご記入の上、〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 彩の国さいたま芸術劇場・事業部「みんなのオルガン講座」係までお申込ください。
詳細については048-858-5506までお問い合わせください。

【申込締切】下記「応募方法」で、3月8日(木)必着。応募者多数の場合、抽選。

チケットの購入方法について**窓口販売**

各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただけます。

窓口営業時間

彩の国さいたま芸術劇場 10:00~19:00(休館日を除く)
埼玉会館 10:00~19:00(休館日を除く)
熊谷会館 10:00~17:00(休館日を除く)

電話予約&販売

チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。

*埼玉会館、熊谷会館はチケットの電話予約は行っておりません。

チケットセンター営業時間

財団チケットセンター 048-858-5511 10:00~19:00(休館日を除く)

インターネット販売

ホームページ(<http://www.saf.or.jp/>)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

インターネットでの販売期間

メンバーズ優先予約は初日の10時より、一般発売も初日の10時より受付開始し、公演前の19時に発売は終了いたします。

チケット代の支払い方法**■窓口現金、クレジットカード****■電話現金、クレジットカード、コンビニエンストア振込****■インターネットクレジットカードのみ**

*コンビニエンストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。

*お支払いいただく代金は、チケット代金+セキュリティパック代(400円)になります。

*各館で、電話予約済みのチケットをご精算、お引き取りいただけます。

*当日券のご精算にもクレジットカードをご利用いただけます。

*メンバーズは口座引落になります。

セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて

●セット券、連続券は、原則として前売りのみ(開催日の前日までの)お取り扱いです。

●学生券をご利用の際は、チケット購入時・公演当日とも学生証をご持参ください。

●各種チケット割引サービスは併用できません。

ご注意及びお願い事項**●チケット発売初日の窓口での購入枚数、お電話でのご予約枚数を制限させていただきますがご了承ください。チケット発売初日の電話予約は1度のお電話で1公演のみに制限させていただきます。また、チケット発売初日はお席のご案内はいたしておりません。あらかじめご了承ください。**

●チケットご予約後のキャンセル・変更・再発行は一切行っておりません。

●チケット紛失の際は、チケットセンター(電話:048-858-5511)にお問い合わせください。

**(財)埼玉県芸術文化振興財団
メンバーズ特典**

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入会すると、「便利」で「楽しい」特典がもれなく付いてきます。

年会費: 2,000円**メンバーズ料金**

財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF

財団情報誌

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている、情報誌がお手元に届きます。

優先予約

一般発売よりも早く、チケットをご予約いただけます。

プレオーダー

人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。*指定席の場合、お席は抽選になります。

レストランでの割引

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名までが10%OFF。

ポイント制度

チケットを購入するとポイントが貯まります。貯めたポイントはチケットと交換することができます。*チケット購入金額10円につき1ポイント。1ポイント1円にて換算されます。

キャッシュレス

チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの自動引落になります。

チケットの安心無料送付

ご購入いただいたチケットは、セキュリティパックにてお届けいたします。

その他

ジョンレノン・ミュージアム(TEL 048-601-0009)への入場料金が割引になります。

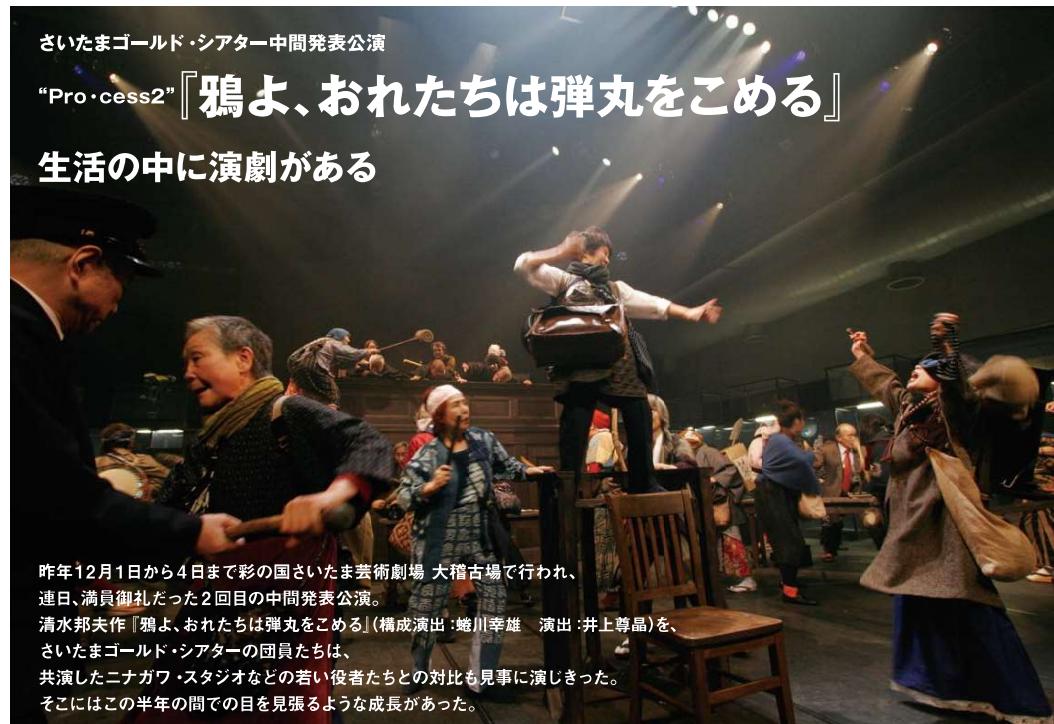
大人 1,500円→1,300円
高大生 1,000円→800円
小中学生 500円→400円

表紙 鵜川幸雄演出「恋の春折り」出演
北村一樹、妻・柳葉、窪冢俊介、高橋洋、
内田裕也、川島悠貴、中村友也、須賀貴匡
◎後藤公輝
裏表紙 さいたまゴールド・シスター「Process2」[現す、おれたちは弾丸をこめる]舞台写真より。
◎帝田森

編集 鴨川幸雄

発行日: 2007年1月15日
監禁版権
◎(財)埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15,January 2007
All Rights Reserved
by Saitama Arts Foundation

SAITAMA ARTS FOUNDATION**熊谷駅****JR高崎線****大宮****JR****高崎****新宿****東京****伊勢崎****浦和****新橋****西武新宿****新宿**



さいたまゴールド・シアター中間発表公演

“Pro·cess2”『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

生活の中に演劇がある

昨年12月1日から4日まで彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場で行われ、連日、満員御礼だった2回目の中間発表公演。

清水邦夫作『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』(構成演出:蜷川幸雄 演出:井上尊晶)を、さいたまゴールド・シアターの団員たちは、共演したニナガワ・スタジオなどの若い役者たちとの対比も見事に演じきった。そこにはこの半年の間での目を見張るような成長があった。

若者が演じた婆を、
本物のお年寄りが演じる

呼子を合図に、武器を手にした三十人余の婆たちが流れ込んでくる。赤ん坊を背負ったもの、鍋からやかんから所持道具の一切合財を体に括り付けているもの……誰もが煮しめたような生活の匂いを撒き散らし、それまで整然と統制されていた法廷が一瞬にして席巻される。同時に、客席も同様、婆たちの世界に否が応でも引きずり込まれる……。

昨年の5月から活動を開始した「さいたまゴールド・シアター」の第2回中間発表公演「Pro·cess 2」は、前半から観客の心を驚撃にした舞台だった。脚本は清水邦夫の名作『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』。この作品は1971年、アートシアター新宿文化で蜷川幸雄が35～6歳当時、演出し初演したもの。この脚本を今回選んだのは、お婆さんたちが複数登場する脚本だったこともあるが、「当時は縁魔子ら若者が婆を演じたが、本物の年寄りが演じたら、どういう変化が生まれるのか」という興味が蜷川にあったという。

いよいよ始まった役者としての試練

しかし、立ち回りもあり動きも大きいこの作品は、団員たちにとって初めてづくしだった。まずはキャスティングからして初めての経験。前回の中間発表では、全員には平等にセリフが振り分けられたが、今回はそうはいかない。役を変え何度も繰り返された本読みが、アピールタイム。思わぬ彈けた個性を發揮し蜷川を驚かせるものもいれば、完璧な暗記をいち早く披露し注目を浴びるものもいる。もともと脚本に書かれている主要なキャストは20名ほどだが、そこから漏れた人は、自らで新たな婆を個人史や人物像を交え創り上げた。こうして更に個性的な婆を加えつゝ未曾有の婆団が出来上がったが、舞台に上がる人数が多くなるほど、立ち位置や段取りなどが複雑になり、セリフ覚えに加え難題を抱えることになる。何よりも難しいのは、そうした動きを確実にこなしていく中でも、役になりきり、役の感情を常に持ち続けることだ。誰かひとりでもウソになってしまふと、とたんに舞台は綻んでしまう。「殺人の顔だよ！　きれいな顔なんかいらない」。幕開も近づき、蜷川の怒号にも焦りがにじむ。今回は



1. 法廷を占拠した婆たち。2. 法廷 (手前右) や裁判官らは人質に。3. 不出来な孫に思いの丈をぶつける婆。4. たくさんの婆たち。手前左からいくわく婆、お祭り婆、三株線婆、はげ婆ら。5. かいせん婆 (左) と三味線婆、虎婆の孫。6. わたしらが若者に藤るしかない! と、仲間を鼓舞する虎婆 (左) と稻妻。7. バンクの中で勘定あうノバーバ婆 (左) とおばこ婆。8. 団員たちに語りかける蜷川幸雄 (右) と演出の井上尊晶。9. 真剣そのものの団員たち。10. 小道具にも各人の工夫が凝らされている。11. 一人一人が自主練習に真剣だった。12. 演技をチェックするため、ビデオに見る団員たち。

「すごいもの観ちゃった。リアリティがありすぎますよ」
(俳優・吉田鋼太郎さん)

「それぞれが一人の人物として、芝居の中にちゃんと存在していて、あーこれが『さいたま』ゴールド(・シアター)だって嬉しくなりました」
(講師の一人、広崎うらんさん)

蜷川自身、「セミドキュメンタリー演劇かな」と言うように、老人が老人の役をやる時に、技術やセリフを超え、立ち上ってくるそれぞの生活史が、この作品をよりリアルに身に迫るものにしている。「もっと生活の中に演劇があるということで、そういう意味では特権的な、稀な体験をしていると思う」(蜷川)。

公演は千秋楽まで5回。夢中で演じるうちにどこかをぶつける人や、緊張のあまり下痢や嘔吐がある人、開演直前まで点滴を受ける人がいたりと満身創痍だった団員たち。けれど、意気軒昂だ。

「これをやりおおせたことは自信につながりますね」(団員)。

「シナリオを真剣に読み込んで、役になりきることで、人生まで変わってきた」(団員)。

今年6月を予定している本公演ではオリジナル作品に臨むという彼ら。その行く末をしっかりと見つめたい。

SAITAMA GOLD THEATER

photo:幸田 森 取材・文:鶴澤章子

発売中及び近日発売のすべての公演情報

EVENT CALENDAR



PLAY

1.23 2009年5月23日(火)～28日(日)
『コリオライナス』
◆1月23日(火)～2月8日(木)(全20公演)
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
詳細はP.6～7にて

COMMUNICATION

光の庭プロムナード・コンサート
オルガン・ミニ・コンサート

監修:鈴木雅明 構成:大塚直哉
◆2007年3月20日(土)開演14:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
◆出演:浅井寛子(オルガン)とおはなし
久松洋三(マンドリン)
◆入場無料



昨年、8月19日に行われた「オルガン・ミニ・コンサート」(オルガン:大塚直哉)より。

「talk・talk・talk」第5回
歌手 森山良子 × 演出家 鰐川幸雄

◆3月3日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
詳細はP.12～13にて

MUSIC

2.16 2009年2月16日(金)～19日(日)
『わたしは血 JE SUIS SANG』
◆ヤン・ファーブル
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
詳細はP.10～11にて

4.6 2009年4月6日(金)～8日(日)
『イザベラの部屋』
◆ヤン・ロワース&ニードカンパニー
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
詳細はP.12～13にて

AT RANDOM

『トランスマメリカ』
彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

◆2月23日(金)開演19:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:柳家三太楼改め三遊亭遊雀
三笑亭夢之助(ゲスト) 柳家喬太郎(ゲスト)
三笑亭恋生
◆チケット(税込)
一般¥3,000 メンバーズ¥2,700
ゆうゆう割引(学生・65歳以上)¥2,000



三游亭遊雀 三笑亭恋生 柳家喬太郎 ©加藤英弘

5.3 2009年5月3日(木)～5月8日(火)
『ウィーン少年合唱団』
◆5月3日(木)～5月8日(火)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.17にて

6.17 2009年6月17日(土)～29日(日)
『ピアノ・エトワール・シリーズ』
◆Vol.1 ララフ・ペレハッチ 6月17日(土)
◆Vol.2 イライ・ラシュコフスキ 9月8日(土)
◆Vol.3 ディヴィッド・グレイル・ザンマー
11月23日(金)～
◆Vol.4 小菅 優 12月9日(日)
詳細はP.16にて

ニューヨーク・フィル・プラス・
クインティット [NEW]

◆7月7日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
詳細はP.17にて

3.11 2009年3月11日(日)
『源氏語り54帖』
◆第36回 3月11日(日)「夕霧」開演14:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:幸田由子(朗読)
三田村雅子(解説:フェリス女学院大学教授)
◆チケット(税込) 全席指定 2,500円
◆好評発売中



©浅野いづみ

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～立川談春～ [NEW]

◆4月13日(金)開演 19:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
詳細はP.18にて

CINEMA

影の国シネマスタジオ
『かもめ食堂』
◆2月10日(土)～11日(日)
開演10:00～12:45／16:00～19:00
※2/11は、12:45上映終了後、ゲストトークあり。
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
制作:群ようこ 脚本:荻上直子
エンディングテーマ:井上福水
◆キャスト:小林薫美、片桐はいり、もたいまさこ、
ギャルソン、二宮和也、アーマルクス、マルック・ベルトラ
ほか (2005年 日本 102分)
◆チケット(税込) 全席自由
前売一般 1,000円 小中高生 800円
(当日一般 1200円 小中高生 1,000円)



©かもめ企画

影の国シネマスタジオ
『宅鳴 滝(たくまき)さん』

◆3月10日(土)
開演10:00～12:45／16:00～19:00
※12:45上映終了後、ゲストトークあり。
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:脚本:ダーカン・タッカー
製作総指揮:ウイリアム・H・メイシー
◆キャスト:クリシティ・ハーマン、ケヴィン・セガーズ、
フィオラ・フランガン、エリザベス・ペニキ、キャリー・
ブリストン、ほか (2005年 アメリカ 103分) (R15)
◆チケット(税込) 全席自由
前売一般 1,000円 高校生 800円
(当日一般 1200円 高校生 1,000円)



©山下恒徳

EVENT CALENDAR

PLAY

2.8 2009年2月8日(木)～12日(月)
『オレナス』

DANCE

3.16 2009年3月16日(金)～31日(土)
『恋の骨折り損』

MUSIC

2.18 2009年2月18日(土)～22日(水)
『ヤン・ファーブル』

AT RANDOM

4.6 2009年4月6日(金)～8日(日)
『わたくしは血 JE SUIS SANG』

COMMUNICATION

4.8 2009年4月8日(土)～12日(水)
『オルガン・ミニ・コンサート』

MUSIC

5.10 2009年5月10日(土)～14日(水)
『ピアニスト100 No.99 レイフ・オヴェ・アンスネス』

AT RANDOM

5.23 2009年5月23日(金)～27日(火)
『影の国さいたま芸術劇場 映像ホール』

MUSIC

5.30 2009年5月30日(木)～6月3日(日)
『仲道郁代ピアノ・リサイタル～デビュー20周年を記念して～』

AT RANDOM

6.10 2009年6月10日(木)～14日(月)
『ピアニスト100 No.100 アレクセイ・ゴルラッチ』

COMMUNICATION

6.17 2009年6月17日(土)～29日(日)
『ウィーン少年合唱団』

MUSIC

6.17 2009年6月17日(土)～29日(日)
『ピアノ・エトワール・シリーズ』

COMMUNICATION

6.17 2009年6月17日(土)～29日(日)
『ニューヨーク・フィル・プラス・クインティット』

COMMUNICATION

6.17 2009年6月17日(土)～29日(日)
『源氏語り54帖』

COMMUNICATION

6.17 2009年6月17日(土)～29日(日)
『影の国さいたま寄席 四季彩亭～立川談春～』

COMMUNICATION

COMMUNICATION

団員紹介

茅野弘子(ちのひろこ)さん 74歳

アマチュア劇団を主宰していた時期もあったが、演劇をするのは実に四半世紀ぶり。「肉体鍛錬をしていかなかったので最初は大変でしたが、なんとかここまで来ました」。

1.芝居への断ちがたい思いを、長い間封印していた私にとって、「庶民資格アリ」という願ってもない好機でした。これまでのなにとも中途半端な生き方に締めくくりをつけたいと思ったのです。

2.気に入らない服を派出して、東の間他者になって生きてみるのは無上の喜びです。なにしろ、その場に参加しているだけで楽しいですから。

3.独りでは不可能なこと。作者の意図した人物像にどれだけ近づけか。そしてそれを観る人たちにどれだけわかるかもえるか、ということ(ムカシカイ)。

4.トチらないで、全うしたい。健康面でも。

遠山陽一(とおやまよういち)さん 70歳

「金さん」の愛称で皆に愛されている人気者。ひょきんで稽古を盛り上げるムードメーカーだが、その実、大変な努力家でもある。セリフは覚えるまで、すべて何度も筆で書いて覚え、ほとんど完璧な暗記で越川以一下一同を驚かせる。「褒められると嬉しくなってもっと頑張りたいと思うし、ダメだと呟かれたら直せばいいんだから」。このボディタイプは、これからの「さいたまゴールド・シアター」の強力な原動力になるだろう。

1.越川さんなら信用できると思ったので。若い時は経済的に演劇の道はあきらめたが、やっと好きなことに打ち込めることは嬉しいなと思った。

2.見れる人の間としては、心穏やかなる一夜の夢。演ずる側の人間としては、緊張感と解放感がまちまち。

3.演者としては、頭でわかったつもりも身体は動きがないし、今までの人生が足を引っ張る。自らを解放することは難しい。日頃エンタインスな生活をしているが、こればかりは思ひもませない。

4.僕は(私用のためやむを得ず)前回の舞台に立っていないので、今回、舞台上に対する思いの丈をぶつけてしまいたい。セリフは少ないけれど、精一杯やってみます。来年からのプロを目指して(団をいいかな?)。

竹居正武(たけいまさたけ)さん 63歳

中学校での演劇部の頃から、ずっと役者になりたかったという竹居さんは、ビデオで自分の演技をチェックしたりと積極的。「でも、まだまだ下手だなーと思いますよ」。

1.プロの俳優になるため、僕は現役で一級建築士事務所の代表を務めているが、これから的人生を俳優として生きていきたいのです。越川さんならそのチャンスを与えてくれると信じて。

2.見る側の人間としては、心穏やかなる一夜の夢。演ずる側の人間としては、緊張感と解放感がまちまち。

3.演者としては、頭でわかったつもりも身体は動きがないし、今までの人生が足を引っ張る。自らを解放することは難しい。日頃エンタインスな生活をしているが、こればかりは思ひもませない。

4.僕は(私用のためやむを得ず)前回の舞台に立っていないので、今回、舞台上に対する思いの丈をぶつけてしまいたい。セリフは少ないけれど、精一杯やってみます。来年からのプロを目指して(団をいいかな?)。

徳納敬子(とくのうけいこ)さん 72歳

稽古に励む徳納さんは、周囲もぞぞて言うほど、嬉しさで生き生きとしている。それも無理からぬこと。小学生の時から毎年、学芸会で主役を演じ、様々な劇団から入団の誘いも来るほどだったというが、父親の強固な反対でプロへの道を断念。「さいたまゴールド・シアター」への参加は、彼女にとって当時のその夢の続きをやることに他ならない。だから、あえて旧姓を名乗る徳納さんは、すっかり気分は10代(?)なのかもしれない。

1.10代でさきらめく演劇への道を、70歳過ぎた今、実現できるかもしれないと思ったのです。

2.2,3の設問に答えるほど、芝居をしていていませんが、現在の心境は、自己の解放と越川さんの演出で芝居が出来る。そして未経験の、観客との交流、でしょうか。

3.自己の解放(自分ではしているつもりでも嘘がありたりするので)、本当に楽しむこと。演技だけに集中できる環境に感謝すること。応援してくれる方々のパワーに応えること。

4.5ヶ月間のレッスンを生かすこと。演技だけに集中できる環境に感謝すること。応援してくれる方々のパワーに応えること。

5.舞台で演じて、観客から拍手を貰う瞬間が何よりも嬉しいです。

6.誰かに或ひきる。そして、これまでの人生で決して言えず閉じていた言葉や行動を、ある人物に託して解放できる面白さ。始まったら終幕まで続く圧倒的なエネルギーの集中は何ものにも代え難い魅力がある。

7.実人生の内面が透けて見えるだけに、歩いて来た生活の質がわかる。表現力の乏しさは感受性のアンチナの低さ。自分の声と身体そのもののどう使うべきか、どうコントロールすれば感情が出てくるのか。

8.鰐川さんの私たちへのゲキ「捨て身になるんだ!」に応えて、諸肌脱ぎます。タトゥも見せます。自分のカラを破り、どれだけ進化できるか。

構成:鶴澤章子

